

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	竜門度 グループホーム あったか荘
(ユニット名)	東ユニット
所在地 (県・市町村名)	佐賀県武雄市山内町大字三間坂甲13842番地12
記入者名 (管理者)	藤 崎 頼 子
記入日	平成 21年 02月 13日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の保育園児のボランティア訪問等を受け入れ、園児達とのふれあいを楽しんでいる。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員でのボランティア受け入れを実施し、又ご家族様へも参加の声かけをし三位一体となり取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の自治会等にも参加し、住民の方への認知症という病気への理解をして頂いている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご近所様との笑顔の挨拶を実行し、行事にはご近所の子供さん達の参加をしてもらっている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会への加入、地域公民館の掃除へ行ったりしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	独居老人様への昼食配布などにも積極的に参加し、少しでも地域高齢者への暮らしの援助を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホームのあり方を日頃より話し合い、評価に対し今後の課題として残った事に対し話し合っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご意見、ご要望などあった時は、職員間で話し合い実行するようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員との話す機会もあり、グループホームの実状を理解してもらっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	十分理解している。ご兄弟等との話し合いを担当の市職員と今後行っていかなければならないと思っている。	○	持ち家や土地があるが、子どもが無く、一人暮らしの方が入居されており、不安なく今後の入居生活を送ってもら様、ご兄弟、市の担当者と話し合っていかなければならないと考えている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間やご家族との情報交換を行い、暴言や暴行等ないようにお互い注意し合うように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居日に荘内での生活について十分、ご本人、ご家族に説明し理解して頂いている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満等があった場合、その都度話し合い解決するようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご面会時、施設長より「生活状況、身体状況を詳しく報告している。健康上の問題がある時は電話で報告し。急を要する時はお出でいただき詳しく説明している。金銭管理に関しては出納長を必要時提示し確認していただき。12月末で、出納帳の写しと領収書を送付し、出納帳への確認印を頂いている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族がご面会時に意見や苦情をお持ちでないかお尋ねしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングを行い、職員の運営に対し意見や提案があった時は、職員全員で協議しよりよい運営が出来るよう心掛けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員数に関しては、十分な員数を確保し緊急時等は十分対応できる様に配慮している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業主に勤務移動は二人ぐらいに抑えてもらい、職員の顔ぶれがあまり変わらないよう配慮してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での各委員会の新人研修を行ったり、外部の研修へ参加し、レポート提出をし自己研鑽に努めている。又、新人職員には施設長や主任より、個人こじんにあったケアが行えるよう指導している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の勉強会や研修会は十分出来ているが、同業者との交流会は行っていない。	○	同業者の方とは県内の研修等では一緒になるが勉強会や相互訪問などはしていない為今後は訪問など実施しサービスの向上に繋げていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内の職員間での親睦を深める為、ボーリング大会やミニバレー大会を行い、相互親睦を深めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は勤務評定を行い、昇給や賞与に反映している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時不安や困り事がないかお聞きし、不安感を解消するよう努めている。帰宅願望が強いときは、ご家族と話し合いながら対応している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	病院よりの入所は、院長よりグループホームの生活がその方に合っていること等を説明し、ご家族や本人の不安感が少なくなるよう説明納得しての入所である。又、在宅よりの利用相談の場合は、在宅生活上の困っていることなどお聞きし、不安なく生活が維持できるようご家族と考え利用して頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談あった時は、担当ケアマネージャーと共にご本人、ご家族の在宅での生活状況と認知症としての症状等をよく聞き、入所が望ましいか、在宅で他のサービスを利用し生活可能か見極めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所時はかなり不安があり、不穏行動が見られるため、職員もコミュニケーションを多く持ち、一人にしないなど配慮し他の利用者の座る位置などにも配慮し、徐々に荘生活に慣れていかれるよう心掛けている。ご家族にも状況報告し安心して頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本に出来る範囲は自分でして貰う介護をし、生活能力を引き出すようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	あったか荘での生活状況をご面会時に報告し、楽しい生活を送られていること、又不安ある時はご家族と解決に向け相談し、安心して利用していただけるよう支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	あった荘での日常生活等を報告し、ゆっくりとお話して過ごしていただけるよう雰囲気を作り、ご家族であることを忘れられないよう声かけなど行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅のご近所様がご面会時はゆっくりとお話して頂き何時でもご面会いただけるような雰囲気を作り、ご面会を歓迎している事が伝わるよう対応に配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い方同士と一緒に過ごせる様一人ひとりに気配りし、お話や歌が唄えるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された時は病室を訪問し励ましの声かけをしたり、ご家族にお会いした時は病状等をお聞きし、不安なく回復に向け療養でせられるよう声かけしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いを大事にしつつ穏やかな生活が送ってもらえるよう努めているが、帰宅願望が強くある方の対応に苦慮している。	○	ご家族と相談をし、ご本人、ご家族共に安心できる穏やかな生活が送っていただけるよう話し合いながら支援していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人に生活歴をお聞きしたり、ご家族に入所前の生活ぶりをお聞きしながらあったか荘での生活に反映させるようしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の生活パターンを把握し、介護拒否等のある場合は職員間で話し合いどう対応すべきか検討し、その方が有する力を発揮できる場面作りする様努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア計画作成時、介護に対するご本人、ご家族のご意向を必ずお聞きし計画に反映させ、ケアカンファレンスに家族様にも参加して頂き、意見を取り入れた介護計画を作成している。計画書には署名、捺印をして頂き写しを手渡している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体状況に変化あるときは計画変更し、ご家族様と相談、報告し生活状況に即したケア計画に変更している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の記録、健康チェック等を個人記録し、介護者間の情報共有とし、計画作成時の情報としている。又、一ヶ月ごとの評価を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出・外泊はご本人やご家族(主にご家族の希望)があれば健康状態よければ何時でも可能とし外出、外泊されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員様の訪問、地域の婦人会、小学生の体験学習、中学生の職場体験学習、保育園児のボランティア訪問などいろいろな方とのふれあいを楽しまれている。避難訓練時は消防署立会いの元行い指導受け利用者様、身体状況等を把握してもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご家族様の意向でたのサービス利用の希望時は他の事業者のケアマネジャーや相談員との話し合いを持ち、サービス利用が可能になるよう支援している。	○	ご家族様の経済的理由により、たの施設を利用したいとの申しである時は可能な限り他の施設入所できられるよう支援している。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ご本人の精神的状況、生活能力に応じ長期的な生活ケアマネジメントし居宅支援事業所等と連携支援している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の通院病院へはご家族が受診介助されている。主治医へ他科の受診状況報告は主治医受診時、処方薬等の報告を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医との連携を図り、いつでも相談可能とし利用者様が安心して治療できるように配慮している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけの看護師の訪問により顔なじみとなられ、訪問時は気軽に話し掛け健康状態の把握が出来ている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の医療機関と連絡や情報提供をし、退院後の指導や助言を受け退院後の支援のあり方を職員全員で協議している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者様全員が高齢になられ、何時どのような事が起こるとも限らない為、頻回に熱発や気管支炎など発症されたときなど、ご家族や主治医とも話し合いながら支援している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族や主治医とよく話し合い、重度化された場合どう支援していくかを職員間でも協議しながら入院されるまでの間を支援している、		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当ホームより他の施設へ入所される場合は、介護連絡表により細やかな情報を提供したり入所先の相談員や担当者の方に、ご本人の生活状況を話し、入居先での生活を安心して送ってもらえるよう配慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人こじんの思いや誇りを大切に言葉かけを行っているが、中には介護拒否があったり言葉かけに問題があったのかと思われるケースもある。個人記録はディルームで行っているが、書類は事務所で保管しており漏洩することはない。	○	利用者様の誇りや思いを大切にする介護をめざし一層の努力をしていきます。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様とのコミュニケーションを図り出来ること出来ないことを見極め、説明が理解できる方には納得していただきながらご本人に自己決定をしてもらっている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく利用者様優先を常に心掛け、利用者様の希望や思いをかなえ、安全で快適な生活を送ってもらえる支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時自分で衣類を選び着用され、美容液をつけディルームでお出でになる方もいらっしゃる。理容・美容は訪問美容室を利用している。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けに工夫し、おいしく楽しく食欲をそそるようにと心掛けている。又お盆拭きを毎食後の日課として頂いている方もおられ、その時はいろいろなお話が聴ける。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒の提供は敬老の日、元旦の行事食として提供している。タバコを吸われる方はおられない。おやつは手作りのものを提供したりし、個人にあった量を介護者全員が把握している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している		
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話してほしいと希望ある時は電話をかけお話されている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご面会時は居心地よく歓談されるよう配慮し、お茶やおかしでおもてなししている。又、常日頃より来客に対しての接遇面において笑顔で迎え笑顔でお送りするよう指導している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対しては法人全体で0作戦に取り組み、常に見守りケアを行っている。夜間立位不安定な方にはセンサーを設置しているがご本人の行動制限をするものではない。(センサー設置については事前にご家族に説明し了解いただいている。)		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はタッチセンサーを押すようになっているがホームのすぐ傍に遮断機のない踏み切りがあり、ご家族に事故防止の為に自由を阻害するものではないことをご利用開始時、説明しご理解をお願いしている。居室には通常鍵は掛けないが、利用者様の中に人の居室に入れ私物を持ち出される為、ご本人の希望で施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	行動制限は行わず、常に見守り所在確認を行いながら安全な生活を送ってもらう様配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様の物品管理能力を把握し、個人に合わせた対応をしている。又、包丁やはさみには特に気を使い注意が必要な物は本数を確認し収納している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの身体状況を把握し、嚥下能力に応じた食事の形態にし介助や見守りを行っている。戸外への散歩には必ず付き添い見守っている。防火訓練を行い火災時の対応に備えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者様の怪我や急変時の対応はマニュアル化し、ミーティング時確認している。研修や法人の救急時の対応の研修に参加し、人形を使つての訓練をし初期対応は出来ている。急返事は医師へ連絡し指示を受け対応している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練を行い避難方法の把握に努めてはいるが、実際の災害時に非難させることができるか常に職員が考えていかなければならないことである。	○	夜間訓練や地域の消防隊員の方との合同避難訓練への参加をお願いするなど協力体制を整えていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ご本人の現在の身体状況、精神状況、生活能力をご面会時報告しふらつきのある方のリスクの高さ、嚥下状態の悪い方のリスクの高さを報告し、職員間でもミーティング時日頃の対応策を確認しあっている。		
を				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康チェックを行い、顔色、体調を観察し熱発時は医師の診察を受け、指示を貰っている。異常時の記録は確実に職員間に申し送りするようノートに記載し、本人の記録簿にも詳細に記録するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員で行い、誤薬や飲ませ忘れない様介護者二人で確認しながら与薬している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便コントロールは食事時の水分量などに気遣い、便秘症の方は医師と相談し、館下剤や座薬を使用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、洗面所まで誘導し自力洗浄の見守りを行ない、出来ない方は介助している。拒否ある時は時間を置くなどの対応を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に応じ、糖尿食、潰瘍食などを提供し、ご本人の摂取量に応じ量を加減し、食欲低下時はご本人が好まれる物を提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染委員会により感染症マニュアルがあり、研修や勉強会があり確認している。感染症発症時はマニュアルに従って対応している。又医師の指示を貰っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は天気の良い日は天日干しし、乾燥布巾で拭きあげ収納している。食材は新鮮なものを使用するよう毎日買出ししている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にはプランターに花を植え、ディルームには観葉植物を置き家庭的な雰囲気に関心掛け、敷地内の一角の畑には季節の野菜を栽培し食材としている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は対面式となっており野菜を切る音や美味しい匂いが漂い、玄関のチャイムが鳴り自分にお客様ではないかと玄関先まで見に行かれたりと生活感がある。ディルームからは電車が通るのが見え、沿線の花を眺めたりされ居心地よく生活されている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リクライニングチェアやソファ、長椅子があり、気のあった方同士が座られ歌を唄ったり、お話をされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使っていた鏡台や造花やパッチワークを壁いっぱいに張られ自分の部屋らしくされ居心地よく生活空間をかもし出されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床しディルームに出られた後に窓を開け換気をし、掃除の時には窓を開けるなど配慮している。冷暖房には利用者様に合わせた温度調節をし、天気の良い日は戸を明け外気を入れるなど配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	あらゆる空間がバリアフリーとなっており、手すりも要所要所に設置され安全な歩行、入浴が出来るように配慮されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	理解力低下のある方でも、何か一つは理解できることはないかを見極め支援している。(居室の入り口の名前、トイレの表示等)		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	散歩コースとしてホームの外周り一周が調度良い距離であり、散歩を楽しまれる。 天気の良い日はベランダで日光浴をしたり、お茶を飲まれたり歌を唄ったりして楽しいひと時を過ごされている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・利用者の方が毎日健康で穏やかな生活を送って頂けるよう、健康チェックを行い異常時や発熱あれば医師への報告で訪問診察してもらい、利用者様やご家族に安心していただけていると思われています。開設より6年11ヶ月となり最初より入居の方はかなり高齢になられ認知症も進行され対応も変化して行きました。その方々にあったその時の状態（身体状況、精神状況）に対しての個々の対応に努めております。

又、地域の方のボランティア訪問を数多く受け入れ、グループホームの理解をして頂いているように思います。特に保育園児や小学生の訪問は大変喜ばれ楽しまれており、今後も開かれたグループホームとして地域の方とのふれあいを多くし、利用者様のご家族、親類とも情報交換を行い、安心して生活していただける様取り組んでいきたいと思っております。